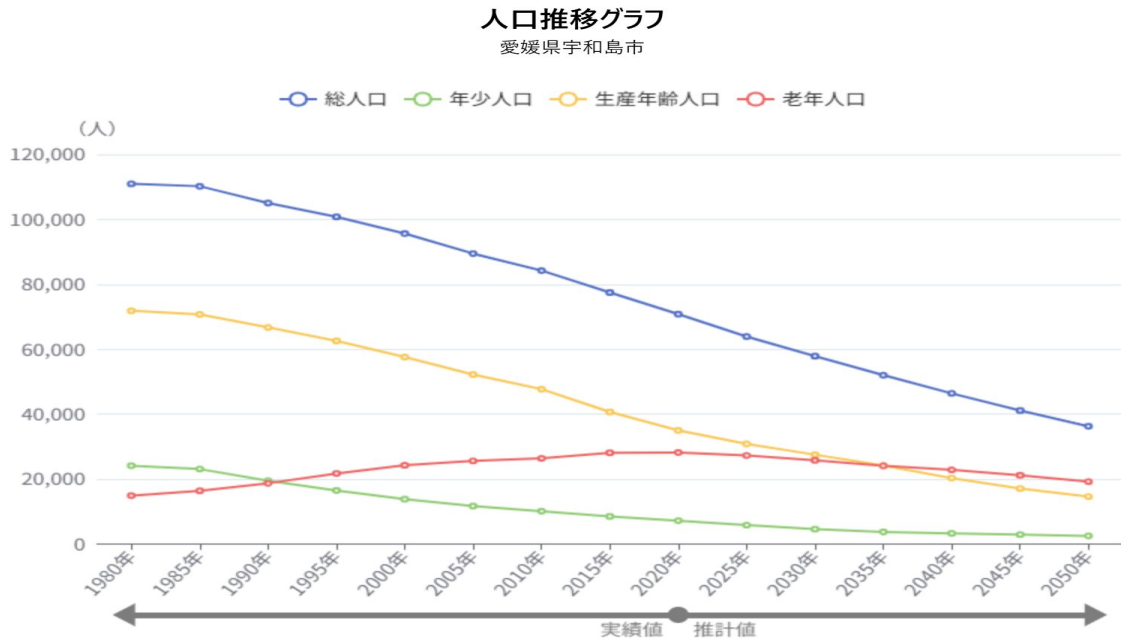


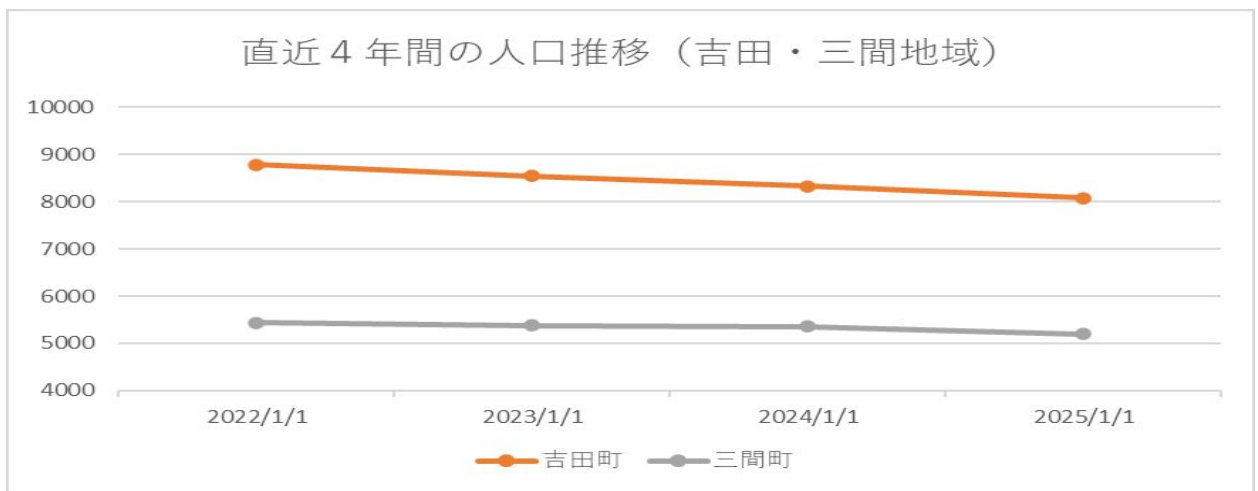
吉田三間商工会経済レポート

<人口推移>



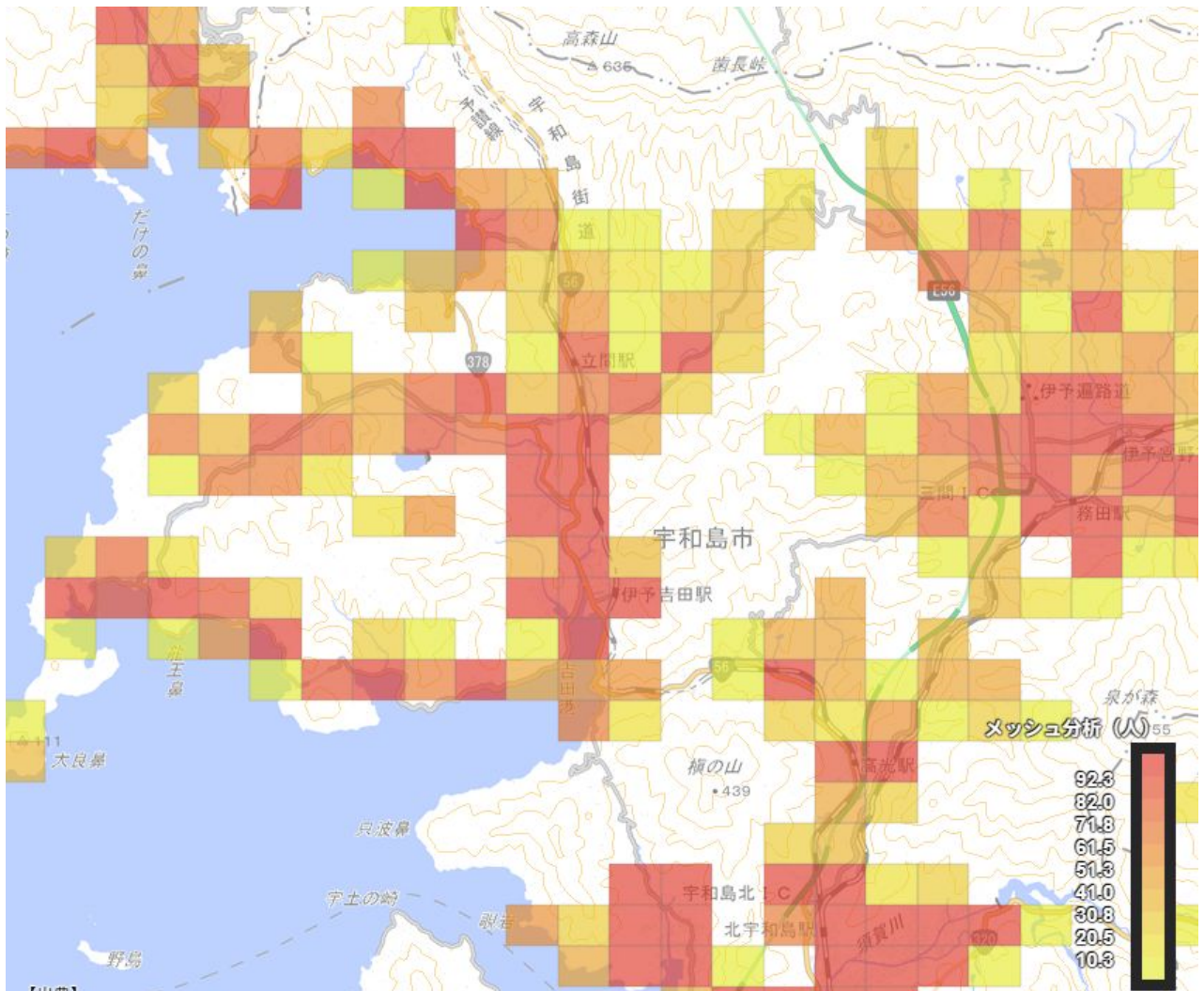
宇和島市全体では、2020年の国勢調査人口において70,809人であり、1980年の110,920人から36%減少した。

さらに、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2045年の推計人口が41,117人で、2020年と比較して42%減少と、下降線を辿っていくと予想される。生産年齢人口についても、右肩下がりとなっている。一方、老年人口は、2020年まで増加傾向であったが、2020年の28,193人をピークに減少に転じ、2045年の推計人口が21,174人と、2020年と比較して25%の減少となっている。



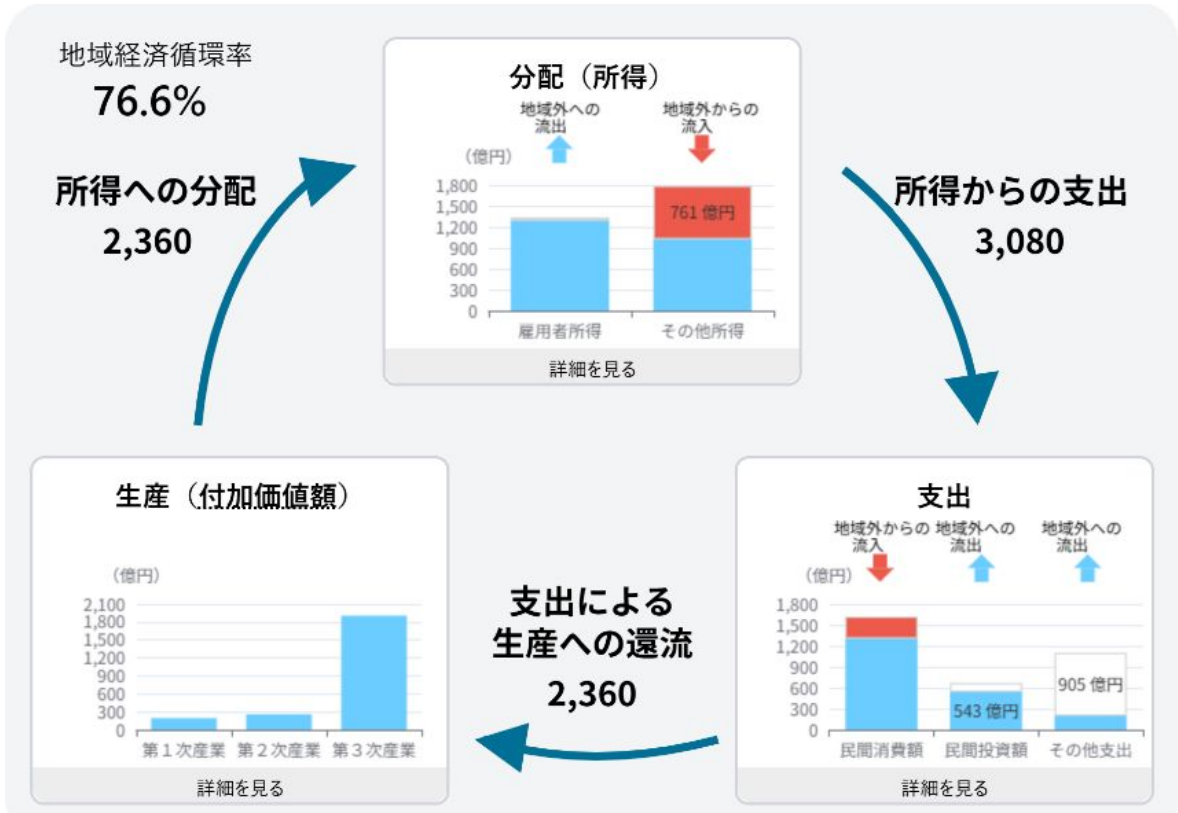
次に、宇和島市が公表している吉田地区、三間地区の推計人口では、2025年4月1日時点において、吉田地区が8,076人、三間地区が5,202人であり、2022年の同月時点の吉田地区8,781人、三間地区5,435人と比較し、吉田地区が8%、三間地区が4%減少、年率平均にして吉田地区が2%、三間地区が1%減少している。

＜人口メッシュ＞



2020年の総務省「国勢調査に関する地域メッシュ統計」における1kmメッシュ単位の人口分布をみると、吉田地区は半島の付け根部分、三間地区は内陸部の盆地でメッシュが濃くなっており、その周辺では、メッシュが薄くなっている。吉田地区は、国道56号線沿線、三間地区はJR伊予宮野下駅付近に人口が集中していることがわかる。

<地域経済循環図（宇和島市/2018年）>



地域の生産、分配、支出の流れを見る地域経済循環図では、地域内の生産 2,359 億円が所得として分配されている。2015 年の 2,321 億円から 38 億円増加している。国からの交付金や補助金など其他所得を加えて、地域内の支出は 3,080 億円である。2015 年の 3,000 億円から 80 億円増加している。

支出流出入率をみると、民間消費額を除きマイナスを示しており、主に其他支出（政府支出、地域内産業の移輸出収支額）の多くが地域外に流出している。

地域経済循環率をみると、生産（付加価値額）÷分配（所得）が 76.6%と、地域経済として概ね自立しているといえる。なお、同比率は 2015 年の 77.4%に比べるとやや減少している。

付加価値額（一人当たり）

2018年
指定地域:愛媛県宇和島市

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額 (一人当たり)	303万円	516万円	794万円
付加価値額 (一人当たり) 順位	617位	1,517位	922位

所得（一人当たり）

2018年
指定地域:愛媛県宇和島市

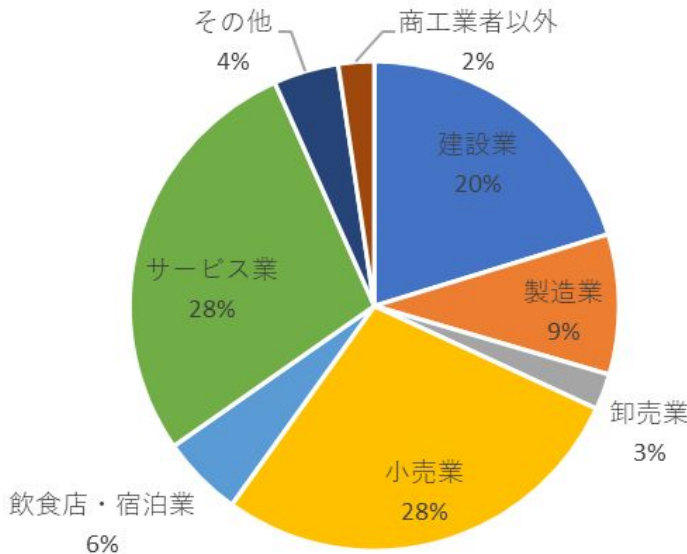
	雇用者所得	其他所得
所得 (一人当たり)	177万円	245万円
所得 (一人当たり) 順位	1,485位	598位

支出流出入率

2018年
指定地域:愛媛県宇和島市

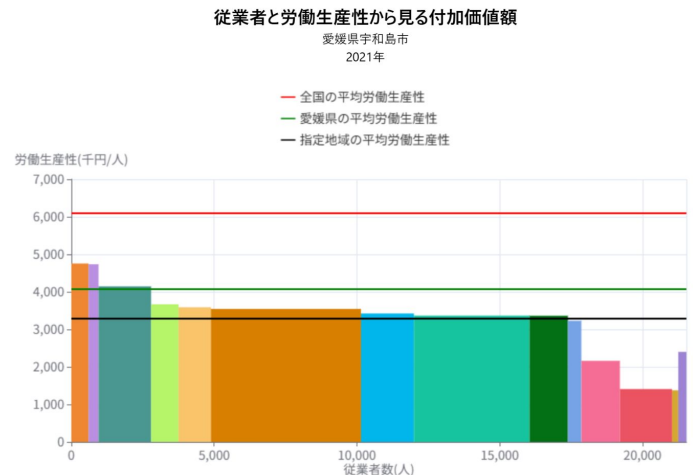
	民間消費	民間投資	其他支出
支出流出入率	23.8%	-18.9%	-81.9%
支出流出入率 順位	239位	921位	1,219位

<産業構造>



業種	業者数
建設業	94
製造業	43
卸売業	11
小売業	130
飲食店・宿泊業	25
サービス業	130
その他	20
商工業者以外	11
合計	464

令和7年度商工会実態調査書では、吉田三間地区において、小売業・サービス業が130者、構成割合がそれぞれ28%と最も高い数値を示している。



サービス業のうち標準産業分類の大分類「サービス業（他に分類されないもの）」と卸小売業は、吉田・三間地区を含む宇和島市における当該事業者の付加価値額（企業単位）は、2021年度サービス業が2,917百万円で、直近5年間で4%増加、卸小売業が18,627百万円で直近5年間で0.2%増加であり、ほぼ横這いである。

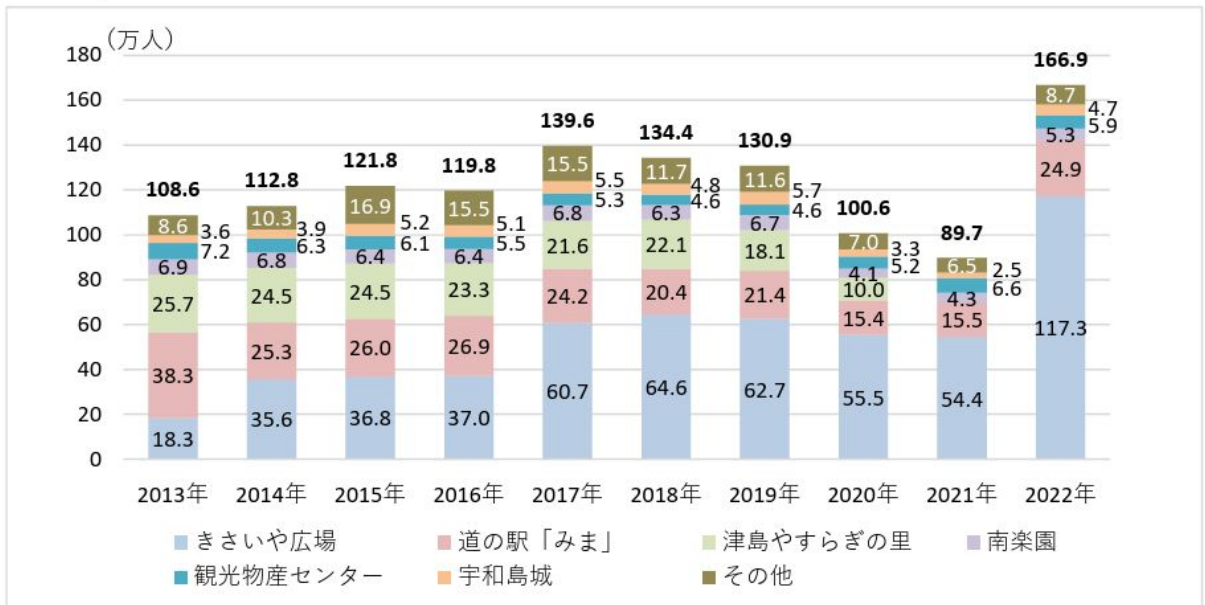
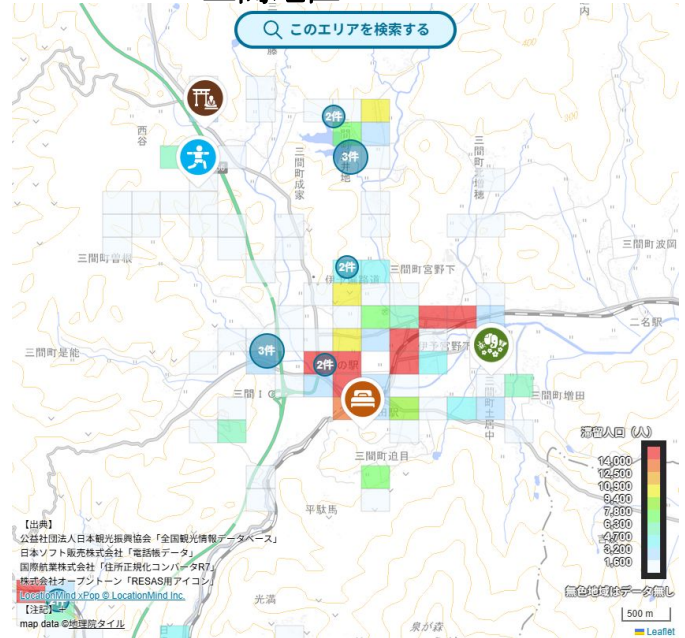
また、当該事業者の労働生産性（企業単位）は、3,290千円/人と、直近5年間で13%減少しているとともに、愛媛県平均より20%低く、全国平均より46%低い結果となっている。

<観光マップ>

吉田地区



三間地区



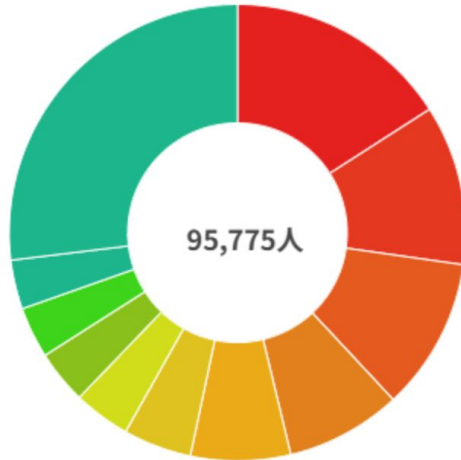
資料：愛媛県庁/観光客数とその消費額
注：津島やすらぎの里は、2021年以降のデータ無

吉田地区は、吉田町の商店街に滞留が多くみられ、国指定無形民俗文化財に指定された「吉田祭のお練り行事」がある。
三間地区は、道の駅みまや畦地梅太郎記念美術館に滞留が多くみられる。
宇和島市の調査によると、施設利用者は、きさいや広場に次いで、道の駅みまが2番目に多い施設となっている。

<From-To分析（宿泊者）>

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合

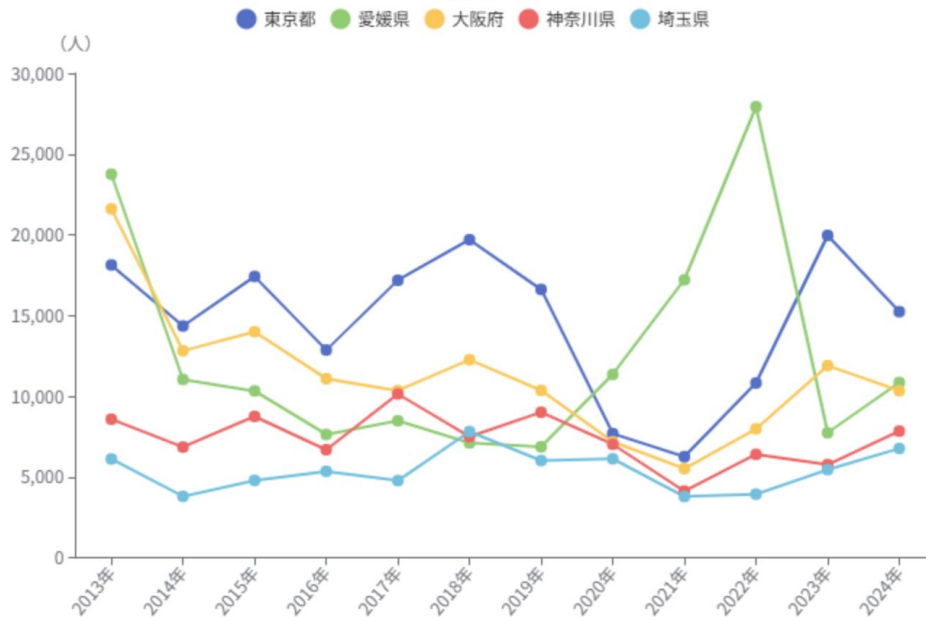
2024年 愛媛県 宇和島市



- 1位 東京都 15,241人 (15.91%)
- 2位 愛媛県 10,856人 (11.33%)
- 3位 大阪府 10,348人 (10.80%)
- 4位 神奈川県 7,847人 (8.19%)
- 5位 埼玉県 6,773人 (7.07%)
- 6位 千葉県 4,632人 (4.84%)
- 7位 兵庫県 3,852人 (4.02%)
- 8位 福岡県 3,633人 (3.79%)
- 9位 愛知県 3,471人 (3.62%)
- 10位 広島県 3,335人 (3.48%)
- その他 25,787人 (26.92%)

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の推移

愛媛県 宇和島市
2024年

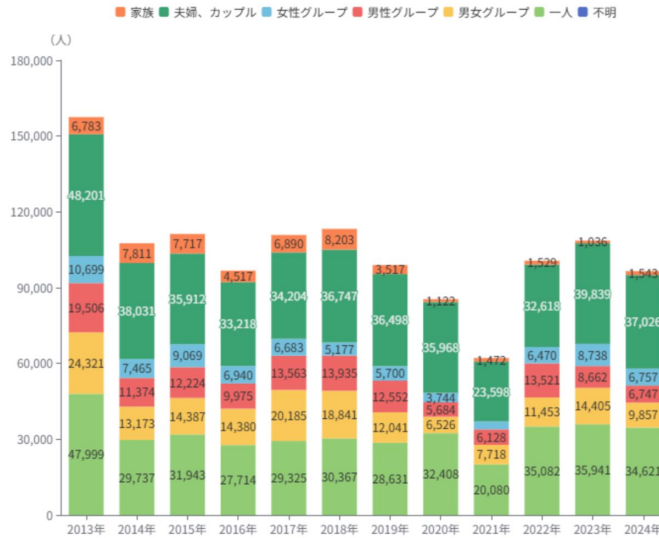


宇和島市内の宿泊者は、2024年で総数が95,775人である。コロナ禍以前の2019年の総数97,796人と比べ多少減少している。

県別では、東京都からの宿泊者が最も多くなっており、次いで愛媛県、大阪府、神奈川県、埼玉県となっている。

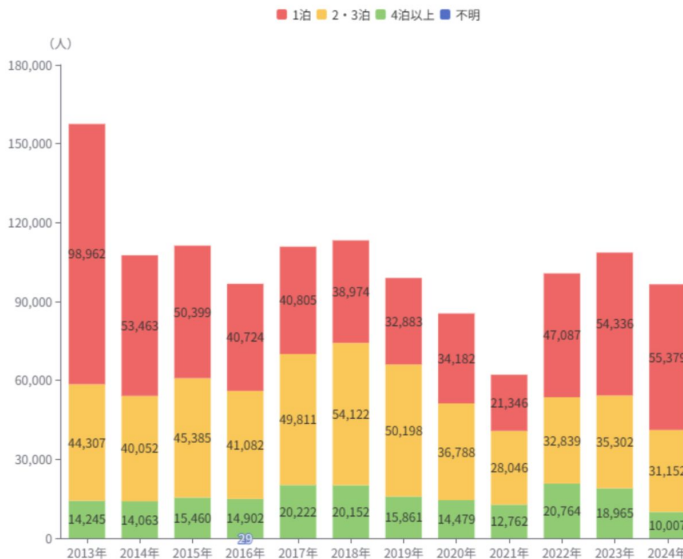
<From-To分析（宿泊者）>

属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移
愛媛県宇和高市
参加形態別



前述した宿泊者を参加形態別にみると、コロナ禍前の2019年と比較して、男性・男女グループ等の割合が減少する一方、1人の宿泊者の割合が増加しており、一人旅の需要が増加していると推測できる。

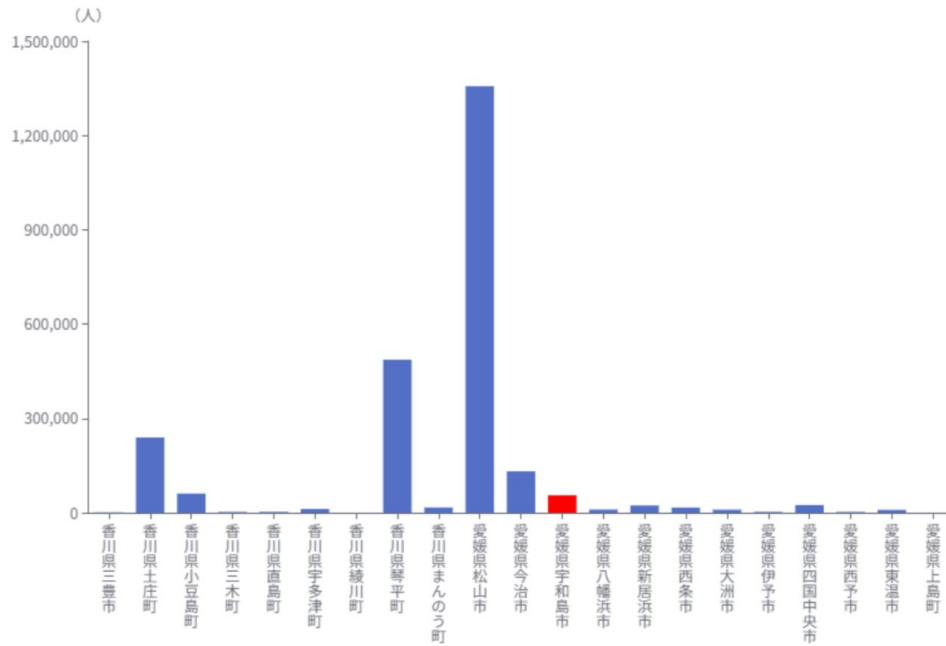
属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移
愛媛県宇和高市
宿泊日数別



前述した宿泊者を宿泊日数別にみると、コロナ禍前の2019年と比較して、2・3泊の割合が減少する一方、1泊の宿泊者の割合が増加しており、コロナ禍以降、ショートステイ化が進んでいることがわかる。

<From-To分析（滞在人口）>

属性別の延べ宿泊者数
愛媛県 宇和島市
2024年
宿泊日数別で表示する
1泊



1泊の宿泊者は、愛媛県松山市が最も多く、次いで香川県琴平町、香川県土庄町、愛媛県今治市、地元である愛媛県宇和島市が上位5位となっている。